

## 「対話型鑑賞法」の事例から

## 「自らの研究成果をナビゲイトすること」を探る



本企画では、京都造形芸術大学アートコミュニケーション研究センターが行っている「対話型鑑賞法：ACOP」の事例をもとに「自らの研究成果をナビゲイトすること」について考えていきます。対話型鑑賞法とは、グループで美術作品について感じたことや疑問点を対話しながら鑑賞する方法です。「ナビゲイター」と呼ばれる役割の人が交通整理を行い、鑑賞者同士の対話をもりたてていきます。ACOPでは、作品そのものではなく、作品と鑑賞者の間に立ちあがるコミュニケーションをアートと捉えます。

このようなコミュニケーションのあり方は、研究（作品）を社会と対話しながら還元していく方法として、アートとサイエンスの垣根を超えた基礎となるものでしょう。研究者が研究成果や提言を一方的に「発信する」だけでなく、受け手の声を聴き、対話を交通整理していくような存在としての研究者のあり方について、議論したいと考えています。研究者・学生の方、あるいは学校教員の方など、幅広い方の参加と「対話」をお待ちしています。

---

**日時：2013年1月20日（日）13:00～17:00**

**場所：京都大学総合博物館 セミナー室**

講師：大野照文（京都大学総合博物館 教授・館長）

館野泰一（東京大学大学院 学際情報学府）

平野智紀（経営学習研究所）

伊達隆洋（京都造形芸術大学 芸術表現アートプロデュース学科 専任講師）

北野諒（京都造形芸術大学 アートコミュニケーション研究センター 研究員）

主催：総合地球環境学研究所

協力：京都大学総合博物館

一般社団法人経営学習研究所

京都造形芸術大学アートコミュニケーション研究センター

## タイムテーブル

時間	内容
13時～13時15分	趣旨説明
13時15分～14時	対話型鑑賞法の導入 (ブラインド・トーク)
14時～14時30分	対話型鑑賞法の体験 1回目 (全体)
14時30分～15時	グループワーク (1)
15時～15時15分	休憩
15時15分～15時45分	対話型鑑賞法の体験 2回目 (2グループに分かれて実施)
15時45分～16時15分	グループワーク (2)
16時15分～16時40分	全体共有・コメント
16時40分～17時	まとめ